



教学 IR レター vol. 3

群馬大学 大学教育・学生支援機構

教育改革推進室 二宮 祐・幾田 英夫

(内線：7521)

2020年12月発行(第3号)

はじめに

このたび『教学 IR レター』Vol.3 を発行することとなりました。今回は新型コロナウイルスが猛威を振るっている中での出稿となります。皆様ご存じのとおり、今年新型コロナウイルスが世界に蔓延し、まだ収束の見込みも立っていない状況にあります。

社会のあらゆる分野でこれまでの在り方が見直され、大学においてもどのようにすれば「三密」を避けながら教育・研究活動を行っていきけるか模索されています。本学でも Zoom や Moodle を使ったオンライン授業が行われています。この状況を受けてこの度、前期のオンライン授業について学生アンケートを行いました。ここではそのアンケート結果から特徴的な回答を紹介します。

アンケートの概要

2020年9月7日から9月18日にかけて、グループフォームにより「群馬大学オンライン授業と学生生活に関する全学アンケート」を行いました。前期のオンライン授業に対し、効果や課題を洗い出し、今後に生かすための目的です。学部生からはあわせて233名の方からご回答いただきました。

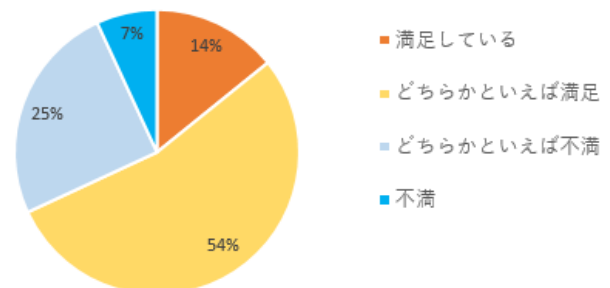
1. オンライン授業に肯定的

今回のアンケートで注目すべきなのはオンライン授業に関する満足度です。Zoom と Moodle の形式ごとに満足度を問う形式でした。どちらの授業も満足した学生は70%~80%に達しています。新

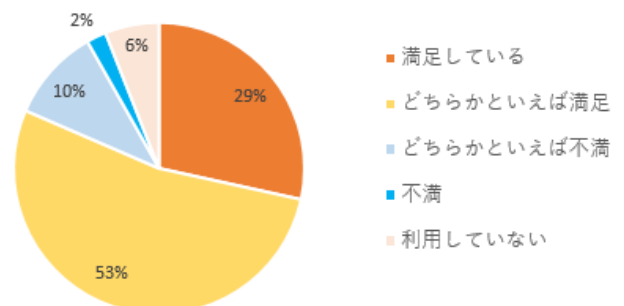
聞などでは他大学の調査結果が報じられ、オンライン授業への評価はあまり良くないようです。しかし、本学に限って言えば学生の満足度は高く、学生はオンライン授業を高く評価していると考えていいのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスの感染拡大の中、教員の方々はこれまでの教材を工夫したり、授業方法をオンラインに適したように見直すなどたいへんな努力をなされています。学生にはその想いも伝わっているのであろうと思います。

【Q8 Zoom利用への満足度】



【Q10 Moodle利用への満足度】



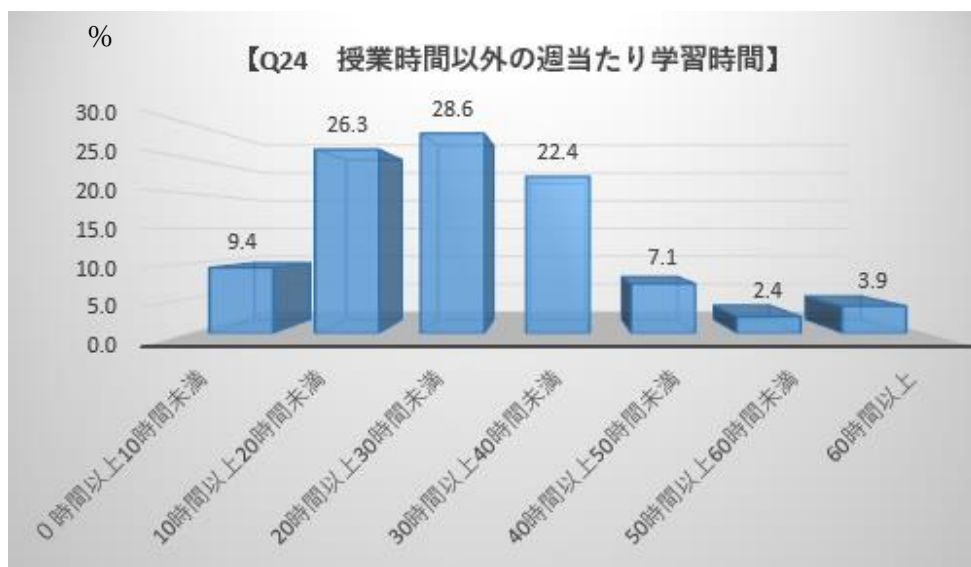
(ウラもぜひご覧ください)

2. 学習時間の増加

学生の満足度が高いというのは学生の勉強が楽になったから喜んでいるということではありません。アンケートからは学生が長時間学習していることが読み取れます。

Q24 では 1 週間の授業以外の学習時間を回答しています。どの学部も 30 時間くらい授業外学習の時間をしている学生の割合が高くなっています。授業を毎日 2 コマ履修するとすれば、週 30 時間の授業外学習をしている学生の場合、1 週間に授業と授業外あわせて約 50 時間学習していることになり、毎日 10 時間程度学習していることとなります（1 コマ 2 時間、週 10 コマ履修、週 5 日学習すると仮定した場合）。特に教育学部 2 年生以上は授業外学習で週 60 時間以上という学生も 20% を占めて

いました。これは 1 日の半分を学習にあてている計算になり、起きている時間のほとんどを学習に充てていたともとれる時間です。本学のみならず日本の大学生は勉強しないと世間から批判されてきましたが、アンケート結果からは全く異なる学生生活が見えています。これからは学生の学習時間を、授業履修時間と授業外学習時間をどのような配分にしていくかなどの検討が、大学として必要になってくるのではないのでしょうか？



3. 友人を得にくい 1 年生

さて本学においては満足度の高いオンライン授業ですが、課題も見えてきました。アンケートでは

【Q25 授業時間以外の学習負担感×Q16友だち付き合い満足度】		Q16 友だち付き合い満足度				
		n	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満
Q25 学習負担感	とても感じた	93	12.9%	22.6%	24.7%	39.8%
	ある程度感じた	108	13.0%	30.6%	39.8%	16.7%
	あまり感じなかった	26	19.2%	26.9%	38.5%	15.4%
	全く感じなかった	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
P<0.01	合計	230	14.8%	26.5%	33.0%	25.7%

1 年生と 2 年生以上に分けて集計しています。友だち付き合いに関して大きな満足度の差が見えます。これは 1 年生が学生同士リアルな付き合いがないので友人関係が作りにくいことによると思われる。2 年生以上の友だち付き合いは 1 年生と比べてあまり影響を受けていません。これは昨年度までにリアルな人間関係が構築されているため、自粛期間であっても SNS などで連絡が取りあえる状況であったからと考えます。

Q25 の授業時間外での負担感と Q16 の友達付き合いの満足度のクロス集計を見ても両者は非常に強い相関があることがわかります。1 年生の友だち作りを促進する仕組み作りが大学の喫緊の課題であると思われます。

(注) 本文、グラフ・表ともに「群馬大学オンライン授業と学生生活に関する全学アンケート 2020」の結果を参照して作成しました。アンケートでは各学部の集計がされていますが、ここでは学部生全体の集計結果を示しています。

4. 自由記述の紹介

ここからは自由記述を紹介していきます。

オンライン授業の満足度 (Q8 と Q10) に肯定的な回答者と否定的な回答者に分けて主な回答を列挙します。

オンライン授業に否定的な学生からは、通信環境によると思われる批判的な記述、課題提出方法への意見が比較的多くみられました。(自由記述の細かい言い回しは変更しています。)

【オンライン授業に肯定的な学生の自由記述】

- ・通学時間がなくなり時間が節約できた。
- ・これまでの通学時間を学習時間に使えた。
- ・移動時間などの無駄な時間がなくなった。
- ・朝早く起きなくてもよくなった。
- ・朝の身支度する時間がなくなったので授業にきちんと出席できるようになった。
- ・これまではあまり有効に使えなかった授業時間の間の空き時間を、課題などの時間に割けるようになった。
- ・自分のペースで勉強できる。
- ・余裕をもって学習できるようになった。
- ・服装を気にしないでよくなった。
- ・通学の時間がなくなったため、睡眠時間の確保が可能になった。
- ・(授業が) オンタイムなので生活習慣があまり乱れなかった。
- ・自宅で食事をとるため食費がかからなくなった。
- ・食事をしっかりとれるようになった。
- ・自宅という環境を活かして授業に向き合えた。
- ・交通費がかからなくなって助かる。
- ・先生方の授業が丁寧で分かりやすい。
- ・(通信環境の) 大きな支障は見られなかった。
- ・東進の映像授業を受けている感覚を思い出した。
- ・慣れれば使いやすい。
- ・教室での対面授業より授業資料が見やすい。
- ・配布資料を紛失するということがなくなった。
- ・過去の授業のレジュメを印刷することなく見返すことができる。
- ・教室での対面授業より声が聴き取りやすい。
- ・対面式のときよりも時間内に確実に授業が終わ

るようになった。

- ・周囲の目がなく、授業に集中できる。
- ・対面式よりも質問がしやすい。
- ・質問がチャットでできるので心理的負担が小さい。
- ・質問をチャットで送るので、先生の授業を途中で中断させなくて済んだ。
- ・質問の時間を多く作ってもらったので授業内容の理解度が上がった。
- ・(オンラインだと) 意見を言いやすい。
- ・他の生徒には(わからないように) 名前を伏せて質問できる。
- ・課題など明確な指示や提出日時が指定されるので学習計画が立てやすい。
- ・課題提出(の方法) が簡単であった。
- ・レポートをわざわざ(直接) 出さなくてもよくなった。
- ・コロナ感染のリスクが減る。
- ・講義動画を見直すことで効果的に復習できた。
- ・板書がスクリーンショットで済むので便利。
- ・実験や実習ではオンライン授業では体験ができないが、講義に関してはオンライン授業で問題ない。
- ・課題の量が尋常でないほど多い。
- ・授業中の他の学生の反応が見られなかったは残念。
- ・長時間パソコンに向き合うので疲労感が大きい。
- ・誰にも会わないため、孤独感がある。
- ・一部の教員で通信環境が悪い方がいた。
- ・時間帯によって通信が切断されることがあった。
- ・友だちと意見交換しにくい。

【オンライン授業に否定的な学生の自由記述】

- ・黒板の板書がオンライン授業だと見にくい。
- ・どうしても先生からの一方通行になってしまっている授業があると感じた。
- ・オンラインで可能なはずなのに課題の提出などを郵便で行う授業があった。
- ・小テストの形式を毎回変える教員がいて不安だった。
- ・課題提出の方法を大学で統一してほしい。バラバ

ラなので困惑する。

- ・対面授業よりも質が落ちる。
- ・使うのがはじめてで使いづらかった。
- ・試験などでいきなりはじめて利用する機能があるととても困惑する。
- ・演習など実技を伴わないと理解が難しい教科は（オンラインでは）理解できない。
- ・レポートを出しておけばいいという風潮があった。
- ・課題提出を無事受け取ったことの教員からの証明がほしい。
- ・講義を再視聴できない授業は復習の面から不満であった。
- ・講義の（進め方）の速さが早いものがあった。
- ・学生からの質問を断る教員がいた。
- ・そもそも質問する機会があまりなかった気がする。
- ・メールだとその場で補足しながら話すことができないので質問しづらい。
- ・授業中にチャットで質問しようとして入力しているうちにどんどん講義が進んでしまっ質問ができないこともあった。
- ・わからないことを先生に質問するハードルが高く、友人に気軽に相談できないため自力で解決策をインターネットから探すためたいへんだった。
- ・もし良かったら各教員のオフィスアワーの時間に教員が Zoom を開いていただいて、質問したい学生がそこに接続して自由に質問できるようにしてほしい。
- ・自分だけわからないのではないかという不安や焦燥感、相談する相手がおらず精神的に追い込まれた。課題ができないと反省するとともに自分に幻滅していった。
- ・チャットでは表記が難しく質問しにくいものもあった（構造式など）。
- ・科目によってはいつ出席をとるかわからないのでもかつトイレに行けないこともあった。
- ・課題提出がちゃんと届いたか確認する手段がなく不安だった。
- ・課題が終わらない状況が長く続いたためリフレッシュするのも困難であった。

・授業や課題提出での通信トラブルについて配慮が足りない。

- ・ずっと部屋にいて孤独感と焦燥感に苛まれた。
- ・人とのコミュニケーションができなかった。
- ・グループワークのときに初対面の人と画面越しに会話するのがとても苦痛だった。
- ・グループワークがはかどらない。
- ・顔が見えない相手とデイスカッションすることに苦痛を感じた。
- ・教員でオンライン授業の充実度に格差がある。
- ・画面で授業を受けるのと、対面で授業を受けるのでは（講義内容の）記憶の定着が違うと思います。
- ・オンライン授業の音声や映像が乱れることがあった。
- ・時間帯によっては（回線が）低速になり、切断されることも多々ありました。実習の講義はそのような不可抗力でも「遅刻」として教員から苦言を呈されることもありました。一部の教員は切断されたときの対応も不十分でした。
- ・（Zoom の画面が）カクカクする時があった。ずっとパソコンと向き合っているので目や体が疲れる。
- ・通信障害が多くあった。
- ・回線障害のため（課題を）時間内に提出できないなどの突然の障害があった。
- ・1日に多くて 450 分もパソコンの画面を見ることがあり、肉体的にも精神的にもつらい。
- ・一人の環境だとやる気が起きない。
- ・通信が途切れることがあるし、人と話すこともできない。課題が多すぎる。
- ・英語のテストで（通信状況に）不調が生じてリスニングが聞き取りにくかったことがあり、単位に響くのでやめてほしい。
- ・Zoom は他人の目が気になる。
- ・教室と違い（自宅は）広いテーブルがない。
- ・結局出席重視の仕組みになってしまっている。
- ・大学生活を全く味わえません。大学は学習と交流の場であり、オンラインでは本来の学習様式を全く体験できなく良くないと思っています。